

# 2022年度 学校法人 三幸学園 仙台医療秘書福祉専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者： 教務課長 真田 美陽

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

本校としては、自律・主体性を持った生徒の育成を目指し、全教員で教えすぎず考えさせる指導を行っている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

#### ■学校運営について

方針・目標が全体に浸透しており、また運営体制もしっかり行われている。

情報共有がスムーズになったものの、講師歴が長い非常勤講師においては新しい取り組みへの順応が難しく、運営方針の浸透を丁寧に時間をかけて行う必要がある。

#### ■教育について

技能教育については就職率も継続して高く(就職希望者 202 名の就職率 100%)、資格取得率も全国平均を超えており、医療機関や保育園、福祉施設の方を招いての実践的教育も行われている。チーム担任制により、複数教員が生徒の状況を把握しサポート体制を整えることができているが、目標喪失や人間関係の悩みにより前期の退学者が前年度より大幅に増加したため、カウンセリングの活用や教員指導力の向上が求められる。スライドを使用している授業展開やアプリを使用して確認テストを実施する教職員もいるが、ITリテラシーやPCスキルの差による課題は継続している。

また、同窓会を実施し、卒業生の早期離職防止や卒業後人材交流に努めた。

#### ■その他

広報活動においては、少子化の時代においても確実に入学者を獲得している。

引き続き、地域活動・社会貢献のために新たな取り組みを検討し、卒業生支援などにおいて、医療機関、保育園や福祉施設と連携をより深めていく必要がある。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

##### ① 課題

・生徒の現状や学習環境と、各業界の現状や求める人材像にギャップがあるため、そのギャップを埋める働きかけが必要である。

##### ② 今後の改善方策

・生徒を取り巻く環境の変化を医療機関、保育園、福祉施設等の訪問の際にお伝えし、求める人材像とのギャップを埋めるために学校に求めることをヒアリングする。

##### ③ 特記事項

・特になし

#### (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

##### ① 課題

・情報システム化を推進しているが、教職員のPCスキルの差により、うまく活用できていない。  
・ネット環境整備の不具合により、業務に滞りが発生していることがある。

##### ② 今後の改善方策

・定期的な勉強会を実施し、PCスキル向上を目指す。  
・学園本部によりネット環境整備を実施し、スムーズな通信環境を整える。

③ 特記事項

・特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・持病や障がい等のある生徒が増加しているため、教育到達レベル(資格取得)に達していない。
- ・退学率の増加に伴い様々な対応が求められるが、それに対し教職員の指導力が不足している。

② 今後の改善方策

- ・合理的配慮にも力を入れ、様々な生徒に対応できるような指導方法を習得する研修を実施する。
- ・卒業生講話の機会を設け、教職員の授業力向上を図るとともに、生徒と卒業生のコミュニケーションの機会を増やしていく。

③ 特記事項

・特になし

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

- ・退学率の低減。
- ・就職率は前年度よりも早く100%を達成することができたが、就職先の選択肢が限られており、新規開拓が不足している。
- ・医療機関との関係性が構築できていないことにより、研修期間中に挫折してしまい内定辞退となるケースが多く見られた。

##### ② 今後の改善方策

- ・退学率低減のために教職員を対象とした定期的な研修会やアウトプットの間を設け、事例を共有し、指導力の向上に努める。
- ・医療機関の求める人材と生徒のニーズをマッチングできるよう、エリア担当のプレゼン力や交渉力等コミュニケーション力のスキルアップを図り、訪問の質向上を目指す。

##### ③ 特記事項

- ・特になし

#### (5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3

社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・生徒の相談体制に関して、学科でチーム担任制を導入しているため、生徒自身がどの先生に相談する内容か、誰に相談するべきか判断しにくい環境にある。
- ・卒業生支援に関して、年1回同窓会を実施し卒業生との交流を行っているが、転職のサポート体制が整っていない。

② 今後の改善方策

- ・チーム担任制がより有効活用できるように、定例会議の中で担任としての在り方の研修やワークを実施し、担任力を向上させる。また生徒から相談しやすくするために、チーム担任制だが主担当クラスを設けて運営する。
- ・卒業生支援をしていくうえで、問い合わせ窓口を設け、同窓会 LINE を活用し卒業生たちが問い合わせしやすい環境をつくる。卒業生向けの求人が届いた際の周知の仕方を仕組み化する。

③ 特記事項

- ・特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・コロナ禍において学外実習機関の確保が難しく、学内実習となった場合の実習の質の向上に努める。
- ・消防設備点検にて設備の一部劣化・不備が発見された。
- ・緊急時の教員の対応・配置について全員が把握できていない現状がある。

② 今後の改善方策

- ・コロナ禍の収束に伴い、学内実習はしない方向だが、学外実習先の確保を早期化するとともに、実習時期の見直しを行う。
- ・消防点検の指摘箇所を速やかに修繕し、不備がないよう担当者中心に管理を行う。
- ・教職員向けに災害や緊急事態発生時の役割を周知し、適切な対応ができるように研修を行う。

③ 特記事項

- ・特になし

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

- ・コロナ禍により留学生の募集が難しかった為、留学生への支援制度や受け入れ状況を把握しておく。
- ・入学前と入学後の学校生活のイメージにギャップを感じる生徒がいるため、差を埋める説明を実施する。

### ② 今後の改善方策

- ・留学生の動向や受け入れについての情報を把握し、日本語学校等の訪問を実施する。
- ・生徒にヒアリングを実施し、ギャップに感じたことが何か把握する。またギャップに感じやすい点等を共有し、教職員が適切な説明を実施できるよう、研修を実施する。

### ③ 特記事項

- ・特になし

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・個人情報の管理、保護の強化。

② 今後の改善方策

・個人情報に関わるデータ等は全てパスワード設定、書類は施錠できる棚へ保管する。

③ 特記事項

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・コロナ禍に伴いボランティアや産学連携の機会が減ったため、地域貢献の機会を新たに検討する。

## ② 今後の改善方策

- ・制作物(保育壁面装飾および玩具)の提供等を継続的に実施し、産学連携を強化していく。
- ・地域の方と交流の機会を設ける。
- ・コロナ禍の収束に伴い、施設訪問の際にボランティア活動等の連携を提案していく。

## ③ 特記事項

- ・地域の園児を招き、保育行事を実施。

## (11)国際交流

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

### ① 課題

- ・コロナによる留学生の入国規制が緩和されたものの、日本語学校の卒業生が少なかったため入学に繋げることができなかった。
- ・介護職に対する認知度が低いため、本校の認知拡大とともに、日本語学校と連携を図り職業理解度を上げる必要がある。
- ・留学生の受け入れ先(実習・就職先)の確保や、日々の授業サポート体制の充実が必要である。

### ② 今後の改善方策

- ・定期的な日本語学校訪問や留学生に対するガイダンスの実施。
- ・留学生の受け入れについて理解を深められるよう、介護福祉科にて実習指導者研修会の実施。
- ・介護実習先訪問の際に、留学生の受け入れ状況をヒアリングし、就労に対する理解を深めていただく。

### ③ 特記事項

- ・東北6県にある日本語学校へ、卒業生数や進路希望業界のヒアリングを実施。